平成28年5月1日
第108号

やかたばら環境通信

◇◇　発行　◇◇
八方原の環境を守る会
代表　黒瀬和美
電話　972・5819

活動の積み重ねが地域資源を豊かに

９年間の活動の成果が少しずつ形に見えてきた

「農地水環境保全向上対策」として始まった事業は、平成27年から農業の持つ多面的な機能を発揮する目的に変化してきました。しかし、農業環境を向上させるための事業であることの本質は変わりません。

これまでにこの地域にされた投資額はすでに２０００万円に迫る金額となっています。水路の改修により機能の改善や長寿命化などの具体的な効果や、水路の草刈りなどの共同作業が日当支払いの対象になって地域の資源の質の向上を図ることができました。

こうした活動の多くは危険を伴うものも少なくありませんが、幸いなことに今まで大きな事故もなくこれましたことは、会員各位の積極的ながら慎重な作業姿勢のおかげです。


水路の一斉清掃は年々参加者が増えている

農業を取り巻く環境は直接的にはＴＰＰの交渉で見られるように国際化が避けて通れません。政府は「日本の高品質で安全な農生産物は国際的な競争力がある」と強調しています。逆に言えば一般的な製品はあまり評価されないかもしれないとも受け取れます。

生産性だけが強調されると日本の農業の将来は困難なものになりますが、農地維持による環境保全という視点に立つと、その役割は他に代わるもののない重要なものになります。昨年３月の小紙でもお伝えしましたが、それらをお金に換算すると国全体では８兆円にも及ぶ効果があると試算しています。私たちの活動はまさにその最前線の部分です。またこれらの活動をみなさまにお伝えするために、毎月小紙を発行しております。掲載内容については、個別の活動の様子に止まらず地域全体の行事や動きにもできる限り対応したものを作成しています。


千田水路の嵩上げ工事の確認をする役員

地域の持つ課題は少なくありません。どの問題も簡単に片付けらるものではありません。誰もが満足できる結論はなかなか簡単にはみつかりません。いろいろな立場の意見を総合的に勘案して相互に理解できる点を見出すことが最善です。つまり「地域づくり」とは地域について考え続けることが一番重要なのかもしれません。本事業の目的の中には「地域の活性化」も重要なウェイトを持ちます。地域のことを考え、自分ができることに取り組む、それらの総合体が、この地域「八方原」をベースに活動する八方原の環境を守る会です。

いよいよ今事業は10年に近づきます。小紙も本号で１０８番目を数えることとなりました。来年５月号が１２０号となります。これからも当会の活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

代表　黒瀬　和美

この通信は http://www.harataco.org/sigeki/ で読むことができます

八方原自治会の新しい活動方針

地域コミュニティーとしての自治会

長く「八方原区」や「区長」という呼称を使ってきましたが、今年度より「八方原自治会」および「自治会長」という呼び方になります。ちなみに小紙では自治会という名称を使用していました。

実行委員会としてスタート

八方原ふれあい盆踊り大会の運営について、従来は自治会の直営形式で運営されてきましたが、実行委員会として独立した形で運営されることが決まりました。盆踊りの持つ「先祖への慰霊」も自治会行事としては微妙な立場がありました。地域の親睦のための「夏祭り」という形も考えられますが、一旦途絶えた盆踊りを復活させたことを考えると簡単に「夏祭り」というわけにはいかないところがあります。自治会が運営メンバーとして参加する実行委員会が企画運営に当たることになります。

水害対策について考える

懸案だった水害対策についていよいよ動き出します。関係する団体「八方原水利組合」「農事組合法人八方原」「八方原の環境を守る会」「消防組」「自治会執行部」と平成21年当時の区長などを交えた勉強会をスタートさせることとなりました。すでに7年の時が過ぎましたが、下の写真をご覧下さい。大水害の記憶が蘇ります。特に1班や事業所の多くが大変な被害を受けられました。



平成21年7月21日の午前、激しい雨に溢れる水路

大事に育てる「瀬戸きらら」



管理機の腕をいっぱいに伸ばして作業中

昨年11月に植えられた麦「瀬戸きらら」が冬の記録的な寒さに耐えて、大きく成長しました。

農事組合法人八方原では、順調な生育を助けるために肥料をやり、病気にならないように消毒を施し管理機をフル稼働させて作業をしています。

麦は湿度を嫌う作物で乾燥状態の方が元気に育つのだそうです。土壌に水分が多い状態が続くと病気になりやすくなるとのことで、慎重に作業計画を立てられています。

5月には麦の刈り取りが始まります。たくさんできると良いですね。

高齢者のための施設が棟上げ



最初に大脇社長が「門餅（かどもち）」を放り上げた

森下地区の雇用促進アパートの前に高齢者福祉施設「ネハリ」が建設中です。4月9日、棟上げ式とともに「餅まき」が行われ、地域の人や関係者など100人以上が集まって賑やかに棟上げを祝いました。

この施設は「株式会社ネハリ」の大脇社長が建設、運営をされるようです。地域にしっかり「根を張って」進むのだということで「ネハリ」の名前を付けられたとのことです。

幹線道路から少し距離を置く静かな環境で、穏やかな暮らしが魅力の施設になると良いですね。